

加州之内宮川彦助跡、參拾石之所令扶持了。全可令知行者也。仍如件。

慶長十三年十一月十一日 利 長判

穴生源三郎

穴生源介跡領知、五十石之所令扶持了。全可知行之狀如件。

元和二年十二月十六日 利 光判

慶長十年の利長卿越中富山養老附士帳に、組外衆の中に穴生又助と云ふ人見ゆ。又寛永四年の士帳に、穴生三百石清兵衛・百石久左衛門・七拾石李兵衛・五拾石源兵衛・五拾石清右衛門・四拾石三右衛門、人數六人、知行高六百拾石。とありて、御歩母衣衆の次に載せたり。三百石などの大祿を賜ふといへども、皆苗字なきは、職工なるゆゑならんか。享保十一年八月十日御大工・穴生御扶持人石切・川除見圖り人、右之人々頭・支配人より願に付、向後帶刀之儀、被仰出と年譜に見ゆれば、それより以前は、穴生頭といへども、無刀にて居たりしこと知られけり。さて穴生は金澤町奉行の支配にて、享保九年の士帳にも、諸御用聞町奉行支配人と

て記載せし中に、穴生七十石奥源右衛門、穴生後藤李兵衛とあり。此の兩人は此の頃の穴生頭取也といへり。また天明三年に記載せし飛鳥川記に、穴生御徒七十石奥源右衛門・五十俵後藤用助・三十五俵後藤元右衛門・三十五俵正木吉左衛門とあり。後藤彦三郎の金城深秘録に、元和の末寛永の初頃の三州諸士俸祿分限帳に。

- 御小將組三百石 江州坂本穴生村産 戸波清兵衛
- 組外 百石 江州坂本穴生村産 杉野久左衛門
- 組外 五十石 本國同斷 杉野清右衛門
- 同 五十石 本國同斷 穴生 源介
- 同 四十石 藤田三右衛門
- 同 七十石 播州之産 後藤李兵衛
- 江州坂本穴生村産 小川長右衛門
- 本國同斷 杉野茂兵衛
- 同斷 穴生 又助
- 同斷 矢倉彦兵衛
- 御切米 杉野傳右衛門
- 同 後藤勘左衛門

御扶持人石切之處、穴生に被仰付人々

林 市左衛門

正木 甚左衛門

右人々の内、戸波清兵衛は病死後、嗣子駿河跡目不被命、江戸表に所縁有之飛越し、藤田三右衛門は奉願江戸へ歸る。後藤李兵衛は初名を彦八と云ひ、利家卿被召抱御母衣役相勤め、後篠原出羽守へ被附、元和八年被召返、夫れより代々穴生役相勤む。矢倉彦兵衛は被召抱、暫相勤め、御暇相願罷歸る。後藤勘左衛門は永五郎元祖、後藤李兵衛は彦三郎元祖也。李兵衛は、播州三木の城主別所小太郎の家老後藤將監二男也と云ふ。

○古江伊左衛門上地町

元祿九年の地子町肝煎裁許附に、古江伊左衛門上地町を穴町と云ふとあり。されば今云ふ穴町の地なる事いぢるし。按ずるに、此の地邊に穴生の者居住せしは、其の以前ならんか。

○古江伊左衛門傳

加陽諸士系譜に、古江氏元祖古江治左衛門、瑞龍公被召

抱、加恩共四百石賜之、足輕頭相勤。二代治左衛門、初名伊左衛門、父遺知拜領相續。三代勘七郎。四代左兵衛、初名建太郎と云ふ。五代要人、實は恒川清左衛門二男也。六代次右衛門、初め大小將組、後馬廻組、天明五年十一月七日有故流刑。其子八十太郎幼少に付、及十五歳遠嶋可被命處、寛政四年一類共依願出家聞届被仰出とありて、子孫斷絶せり。按ずるに、古江氏は、慶長十年の富山養老附士帳に、歩衆之内百石古江三郎左衛門と見え、寛永四年の士帳に、御傍衆之内に百石古江五左衛門とあり。此の兩人は同姓別家ならんか。寛永十九年の小松養老附士帳に、四百石古江治左衛門・百二拾石古江猪右衛門とあり。此の猪右衛門は五左衛門の家にて、伊左衛門とは別人なるべし。

○馬場高岡町

元祿九年の地子町肝煎裁許附に、穴町の次に犀川馬場馬乘拜領地高岡町とあり。今此の町名絶えて知る人なしといへり。按ずるに、此の高岡町も、葦内なる高岡町と同じく、利長卿越中高岡在城の時奉仕せし人々の邸地なるべし。有澤武貞の金澤細見圖譜に、慶長十年・同十六年兩度に、越中